

「最も美しい村」の農村資源計画論
——審査の考え方の日仏比較——

Fujimoto Tokihiko

19AUG2022



リサーチ・クエスチョン

- フランスで1982年にはじまった「最も美しい村」づくり
- 日本でも2005年に組織化され、2012年には「最も美しい村」世界連合が誕生
- 「最も美しい村」の認定基準や審査項目はそれぞれの国に特徴的なものであってよいという。
- 日本とフランスで「最も美しい村」の認定基準・審査項目がどのように異なるのか。
- 農村計画論的な比較研究を行うことで、それぞれの国での特徴と差異、「最も美しい村」の自然・生態環境、思想的基盤を解明することが、本日の目的である。

「最も美しい村」世界連合



Les Plus
Beaux Villages
de France®

【フランス, 1982-】



The Most Beautiful
VILLAGES
of the World



【カナダ(ケベック), 1998-】



【スペイン, 2010-】



LES PLUS BEAUX
VILLAGES
DE WALLONIE

【ベルギー, 1994-】



【イタリア, 2001-】



the most beautiful
villages
in japan

【日本, 2005-】



フランスの「最も美しい村」 (1982-)

現状の美しさに満足してはいけない。美しくなる努力を止めれば、
たちまち、「最も美しい村」は消滅してしまう。

By Pascal Bernard

地域経済発展の基礎としての「遺産」を守る

- 品質・評判・発展：村の内にある「遺産」（Living Heritage）の品質を守る。訪れる観光客数を制御すると共に、村の評判を高めることを目的として。結果として、観光とリンクした地域の経済活動が促進される。
- フランス，1982-
- 2020年 159村



加盟の前提

- コミューンが都市化されていないこと。人口2,000人以下
- 国指定の遺跡が2つ以上ある
- 議会での支持・合意を得る

(フランス, 1991-)



認定専門員



- Pascal Bernard (都市計画)
- 同質的建造物群（時間軸、集合景観）の統一性
- 時代の変遷によって変わるべきもの、変わってはいけないものの峻別
- 同質的建造物群の理想型を維持・継承するために必要な技術と匠（**succession**）
- 「そうした景観上の美しさに加えて、対話する、食べる、飲むといった村の日常生活が息づいていること。
- 「最も美しい村」は美術館・博物館ではない。





土地利用計画

都市計画
ゾーニング



パスカル・アイ

訪問者はどのように村を
まわり、何をみるか



「フランスで最も美しい村」の審査・格付け評価基準

1. 遺産の状況

> コミュニの質 街並み

建物

1. 保護状況

2. 村の周辺部の美しさ

3. 街並みの広がり

4. 街並みの統一感

5. 道路の多様性

6. 規模

7. 屋根に使用された材料と統一感

8. ファサードに使用された材料と統一感

9. 小規模地域遺産(2つ)

2. 開発と監視

開発計画方針

美的処置

開発

監視

10. 都市(農村)計画の存在

11. 電線・電話線

12. 公共空間

13. 建築

14. 照明

15. 植栽

16. 巡回

17. 駐在

3. 地図や書籍

Album Les Plus Beaux Villages de France ほか9冊(計10項目)

集落 = *bijou*/宝石, 自然 = *écran*/額縁



認定委員会

- 20～25名の加盟村長
- パスカルによる現地調査の発表
- 委員全員がコメント
- 投票（パスカルは入らない）
- 1) 無条件の認定, 2) 条件付き認定
- 3) 暫定的認定却下（村の価値はある程度認められたものの、認定には届かなかったコミューンに対し、その課題を解決したうえで、適当な時期に再応募を認める。
- 4) 認定却下（十分な理由付けがある例外的なケースを除き、再応募することはできない）



再審査

- 6年に一度（地方議会選挙）
- 年間25件程度
- 加盟後の「経済的な発展」も評価。加盟後の人口動態，建物の増加率（リノベーションを含む）や入居率，観光産業の増加，工芸産業の増加，「最も美しい村」のロゴマークの使用率，村への訪問者数を分析し，評価する。





Estaing (24-25Jan2017)

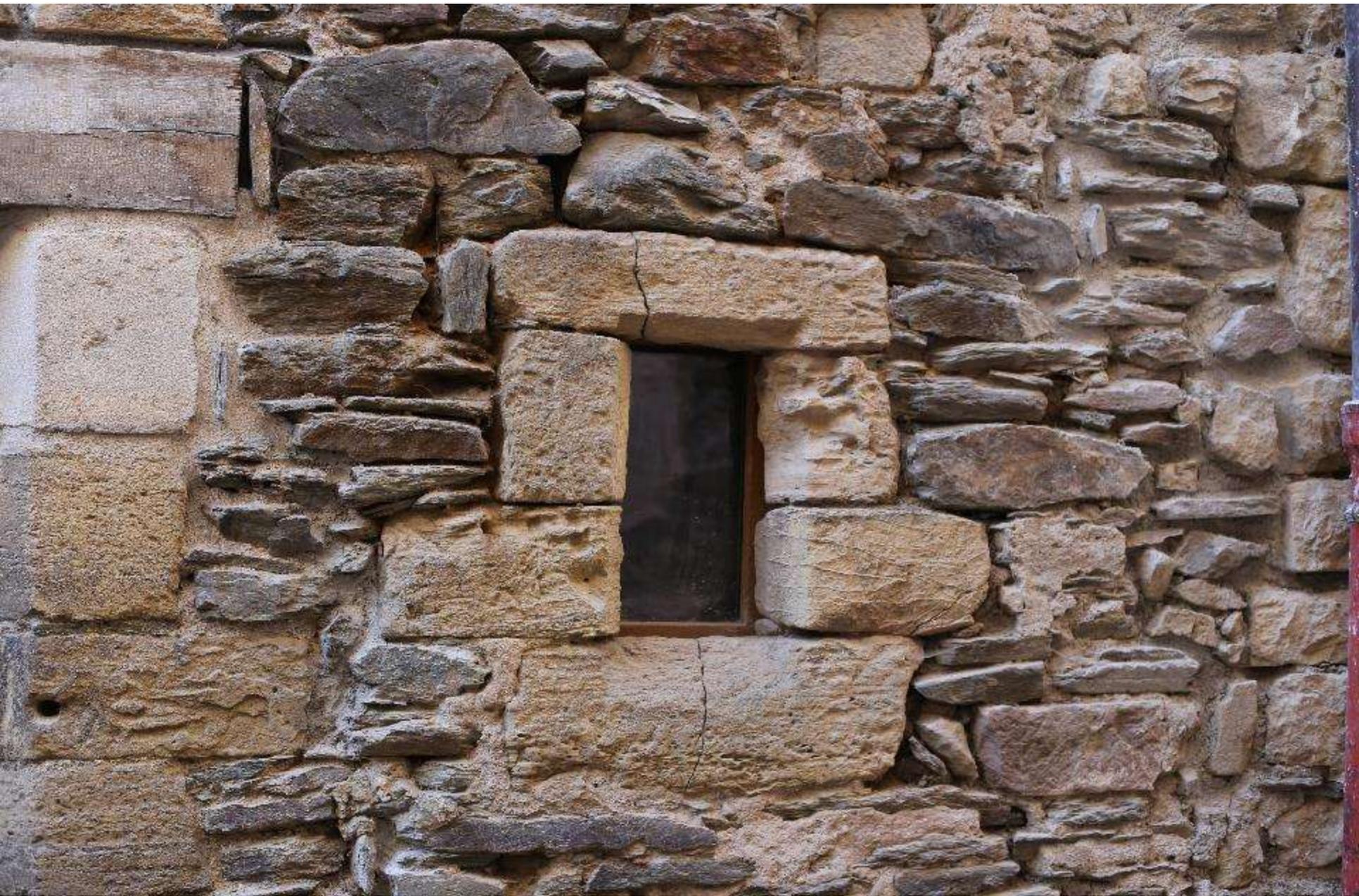














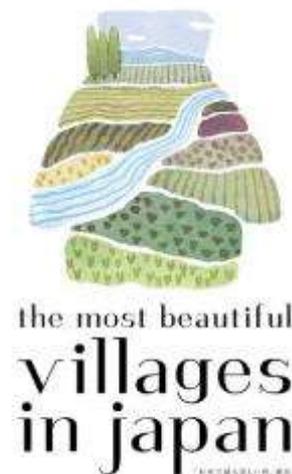




- スコアの絶対値で認証の可否を決定しているのではない。「最も美しい村」は、卓越した景観を持つ村であると同時に、「感情を強く揺さぶる、活気に満ちた場所」でなければならない。スコアに反映されない、総合的な魅力に対する評価も重視している。







日本の「最も美しい村」 (2005-)

私たちは、失ったら二度と取り戻せない、そんな日本の農山村の景観や環境・文化を守る活動をはじめました。日本で「最も美しい村」連合とといいます。 (ステートメントより)

ステートメント

- 小さくても輝くオンリーワンを持つ農山村が、自らの町や村に誇りを持って自立し、将来にわたって美しい地域であり続けるのをお手伝いします。
- 自然と人間の営みが長い年月をかけて作りあげた小さな、本当に美しい日本は、いまならまだ各地に残されています。それらを慈しみ、楽しみ、しっかりと未来に残すために。



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合

創設

- 2005年10月 7町村（北海道美瑛町，赤井川村，山形県大蔵村，岐阜県白川村，長野県大鹿村，徳島県上勝町，熊本県南小国町）で発足
- 2012年 「最も美しい村」世界連合
- 2020年 64町村・地域団体
- 「最も～」とは“極めた成果”の状態，それを求めて常に最善を尽くす
- この運動で「住民自身が作った村」になる。

故・松尾雅彦

「日本で最も美しい村」連合の創設者
元・株式会社カルビー代表取締役社長



いける 思う 食べる よい 厳しい
新しい 人口 まち 人々 参加 持つ おく 悪い
生活 神々しい 生み出す 日本 揺るぎない 決める
大きい 多い 世界 農業 連合 農村 戦略 地域 できる いい
古い 進める 市町村 地域主義 活動 置く
広がる 田舎 NPO 美しい村 景観 イタリア 呼ぶ
ほしい 提案 運動 良い 都市 料理 磨く フランス ビジネス 増える
考える 薄い おる では レベル 美しい づくり 必要 出す 素晴らしい
高い つくる 口うるさい いく 深い おいしい 小さい
生かす

ワードクラウド分析：2003年～2010年にプレス発表された松尾雅彦の発言

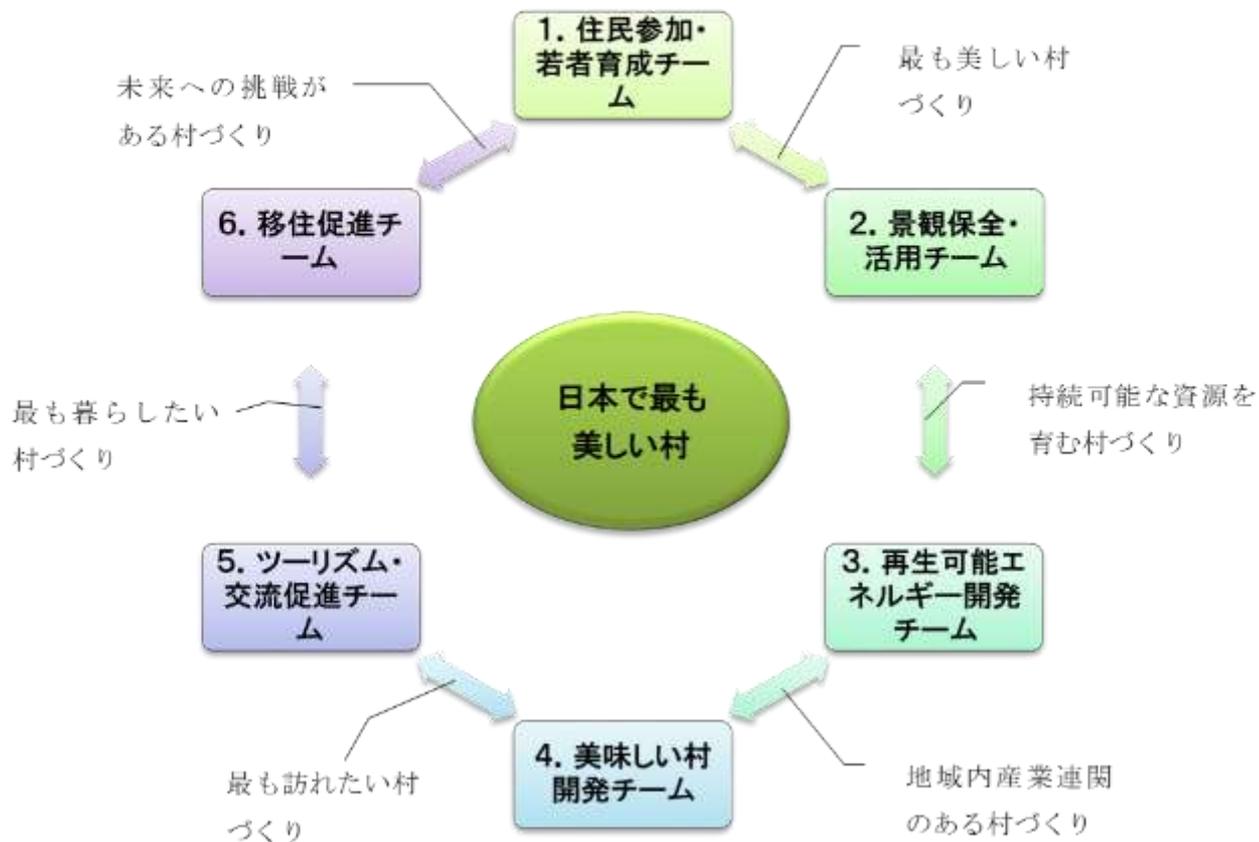
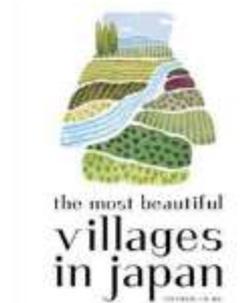
加盟の前提

- 人口10,000人以下
- 地域資源が2つ以上ある
- 農業や林業等の第一次産業が基幹産業である
- 議会の同意がある
- 地域資源：農業・農村景観，自然環境，文化（祭り，伝統芸能，伝統建築，歴史的出来事）



the most beautiful
villages
in japan
「日本で最も美しい村」連合

戦略：住民一人ひとりの力を発揮する、
全員参加の小集団活動（団体戦）が大切



■首長のビジョン

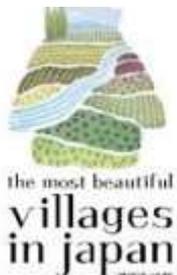
- | | |
|----------|---------------------|
| 1. 地域資源 | 1 伝統的なまちなみや木造建築 |
| | 2 里山・里海の景観 |
| | 3 伝統芸能や祭礼の継続 |
| | 4 地域の素材、食文化や伝統工芸 |
| 2. 世襲財産 | 5 景観保護条例や開発規制 |
| | 6 交通量の制限、駐車場の整備 |
| | 7 木造建築の保存・復活・活用 |
| | 8 電線・電話線の設置ルール |
| | 9 全体の色彩や素材に関するルール |
| | 10 看板の設置に関するルール |
| | 11 ガイド制度の存在 |
| | 12 住民の自主的な美しい村づくり |
| | 13 自主的に運営されている住民組織 |
| | 14 住民活動と行政の活動が連動 |
| | 15 独自性のある良質な行事 |
| | 16 屋内、屋外の場所 |
| 3. 経済的自立 | 17 食、住、エネルギーの地域内自給 |
| | 18 美味しい村(地域的美食革命) |
| | 19 ツーリズムを支える宿やレストラン |
| | 20 若者や女性の雇用や起業支援 |
| | 21 地場産業の育成(複数) |

■首長のリーダーシップ



the most beautiful
villages
in japan

「日本で最も美しい村」連合



現地審査（最も高い価値は農業・農村景観）



町長ヒアリング



地域資源の評価



担い手へのヒアリング



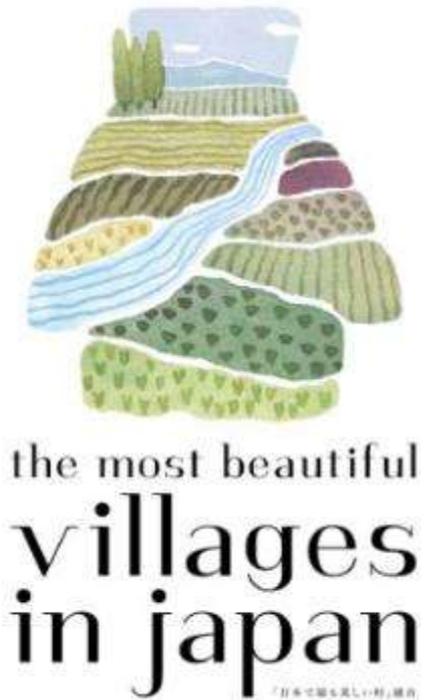
静岡県松崎町（2014年新規加盟審査）



資格委員からのフィードバック

資格委員会

- 16名（うち町村長は5名）
- 資格委員による発表
- 合議により格付け（A-D）
- C：「最も美しい村」として認められるだけの最低限の条件を満たしているが、不十分なところがまだ多くあり、抜本的な改善のための努力が望まれる。
- D：Cの基準にも満たないため、認定却下。
- 再審査は、5年に一回



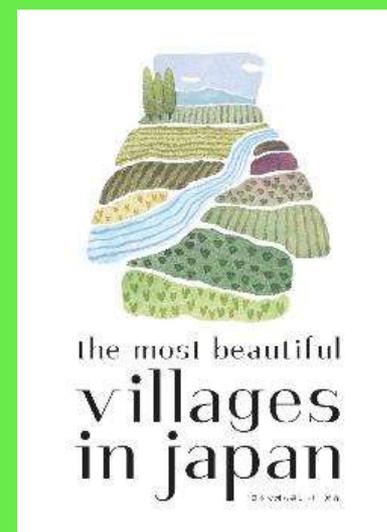


資格審査レポート(5年目審査)

■対象村:高遠町 (長野県)

■審査日程:2021年10月28日~29日

■審査委員:二宮かおる, 藤本穰彦



加盟前提

I. 「日本で最も美しい村」連合加盟村にふさわしい方針と景観を持っている事

連合の長期ビジョンと方向性が一致する長期ビジョンを有している、もしくは5年以内に策定するコミットメントがある

→ 市長みずから作成した「第2次伊那市総合計画」、「伊那市景観計画」、「伊那市50年の森林(もり)ビジョン」があり、決意と計画を明らかにしている。景観のみならず、住民が幸福に住み続けられる経済発展、インフラ整備計画があることは連合加盟村の手本となる。白鳥市長の発言に、連合ビジョンとの方向性の一致を確認できた。

格付評価

A

首長の想いやリーダーシップ、今後のビジョン展開

白鳥市長が、自らの足で川を登り、森を歩き、山から谷の暮らしをみながら、広域的かつ持続的な視点でまちづくりを進めている。地域資源の特徴とIoTなどの先端技術をうまくコーディネートし、また都市との関係性構築にも卓見がみられる。「最も美しい村」の他の加盟村の手本となるエネルギー自給のまちづくり実践であり、この点から連合全体のリーダーシップも期待したい。



加盟前提

格付評価

A

Ⅱ. 連合加盟村にふさわしい魅力的な地域資源を有している
～生活の営みと深い関わりのある景観が存在すること～

① 高遠ご城下通りは、城下町を意識した統一感のある街並み景観を形成している。街路の「無電中化工事」に着手し、城下町の景観向上に取り組んでいる（令和4年度完成予定）。事業継承や空き店舗対策など効果的に施策が提案されている。

② 東に南アルプス、西に中央アルプスを望む2つのアルプスに囲まれた美しい景観を有している。町の沿道には高遠石工による石仏や特徴的な道祖神が見られる。遊休農地を活用し、そば畑として景観が維持、保全されている。自然エネルギー自給のまちづくりが丁寧かつ大胆に進められており、他の加盟村の見本になる要素がつまっている。



加盟前提

格付評価

A

Ⅱ. 連合加盟村にふさわしい魅力的な地域資源を有している ～文化が存在すること～

①町中に点在する高遠石工の石仏群をつなぎ、歩いて回れるような工夫づくりが行われている。今回の再審査では祭礼や芸能の具体的な視察を行なうことができなかったが、その保存と活用を中心事としている熊谷監督や歴史博物館での有賀館長、福澤学芸員による解説からその精神性の高さと、住民の暮らしに根ざした価値の深化を感じることができた。

②・高遠そば「信州そば発祥の地」といわれる伊那市で「高遠そば」を復活させた。文化が移植されていた会津に学び、再生したストーリー。信州大学農学部と連携した品種検討、そばうち職人の要請と開業など、多大な努力の成果が感じられる。

・高遠在来とうがらし 在来品種のトウガラシを活用し、「高遠在来とうがらし保存会」が組織され、八幡屋磯五郎との共同開発で「七味唐辛子」の商品化が実現している。料理人、大学、食品企業が連携した新しいストーリーおこしも見事。次の地域資源になる可能性がある。



基本審査

格付評価

A

●世襲財産の継承

～世襲財産を保護する公的な規制が存在すること～

景観保護条例や開発規制などが制定されている

平成25年に「伊那市景観条例」及び「伊那市景観計画」を策定。「市街地」、「田園」、「山地・森林」の3つのエリアにおける建築物や工作物の新築、増築などを行う場合の基準（色彩、高さ、形態、意匠、材料など）を定めてる。高遠地域では、建築物、広告物、住環境、緑地、農地に関する景観に関する住民協定が5地区で締結されている。現在、太陽光発電設備の設置に関する条例の制定に向け、検討、準備を進めている。



基本審査

行政の規制（取り組み）

～地域の価値を高め、発展させる努力～

- ①交通量の一時的又は永続的な制限がある、駐車場の整備がされている
- ②木造建築の保存・復活・活用に取り組んでいる
- ③電線・電話線の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている
- ④全体の色彩や素材に関する考慮がなされており、ルールが制定されている
- ⑤看板の設置に関する考慮がなされており、ルールが制定されている
- ⑥地域で認定されたガイド制度が存在している
 - ・いずれもよい取り組みがなされている。
 - ・特にガイドの熱量が高く、地元愛を感じる丁寧な案内であった。



格付評価

A

基本審査

格付評価

A

住民参加

～地域の活力を高め、発展させるための住民の自主的な取り組み～

- ・博物館、美術館がただの箱ではなく文化継承と学びの場として機能している。博物館には良い学芸員がいる。自然が味わえる立地にあり、わざわざ訪れる価値がある。伝統の高遠焼の窯元とショップも楽しめる場所。
- ・高遠地域は、伊那市内で最も歴史と文化が体感できる地域であり市にとってなくてはならないエリア。住んで快適、訪れて満足する。そのための地域資源を暮らしのなかで水から磨き上げる人びと。山崎支所長の石工。
- ・少子高齢化等いずれの地方自治体においても共通である課題の解決を一次産業の再構築で計画している。食、水、エネルギーの自給について具体的目標をもち、暮らしのなかで実現する住民と支援する行政（「AI」「IoT」を活用した事例は「SDGs未来都市」（伊那市）選定理由ともなっている）。
- ・若者、女性の活躍を聞いたが、実際に訪れて拝見することはできなかった。次回審査の課題。

基本審査

格付評価

A

経済的自立

～入りを増やし、出を制する、経済的な自立を目指す努力～

【食】「高遠そば」の振興により、そばの生産が盛んとなる。「高遠辛味大根」、「高遠伝統とうがらし」もふくめ生産から消費までを地域内で循環する仕組みを構築している。在来品種である「入野谷在来そば」を復活させ、差別化をすすめている。近年そば店が増え、住民、観光客の需要に応えている。技術支援により開店にこぎつける人材も輩出。

【住】平成23年から空き家情報登録制度「空き家バンク」を運営し、93件（令和3年9月現在）の空き家物件が解消される。無人運転者の実用化等、過疎地のモビリティ改善計画あり。

【エネルギー】森林資源に着目し「伊那市50年の森林ビジョン」を策定。自然エネルギーへの転換を目指している。住民の「薪ストーブ」、「ペレットストーブ」の導入に対し補助制度を創設。公立学校の暖房はすべて木質燃料。公的建造物には市内木材の使用を推進している。

格付評価

A

その他

- ・食、石、土、焼物、エネルギー、森、先端技術、「つくる力」をテーマにした暮らしの博物館のようであった。住民の個々の暮らし方や木づかい、仕事づくり。その暮らし方の情報を見たい。見える化し、評価・発信してほしい。
- ・博物館によい学芸員がいる。美術館もコンパクトでよいレイアウト。子どもたち、他地域からの来訪者も巻き込んだ地域学習の創造に期待したい。



総評・コメント

- ◆高遠町は地域加盟だが伊那市の歴史文化を語るうえでなくてはならないエリア。首長、住民がそのことを理解して保護発展に努力している。
- ◆伊那市の発展シナリオが具体的に提示され、実現のためのアクションが起きている。
- ◆ブランド化のストーリー作りが優れている（石仏、高遠そば、在来種とうがらし、アルプスの景観、エネルギー政策、AI先進活用）
- ◆アクティブな住民、アクティブな移住者の活躍を支援する柔軟さがある。

○よい取り組み、よい暮らしが、一般に知られていない。もっと発信を。

○伊那市の玄関である市街地商店街の多くがシャッターを閉めている。

高遠町の玄関でもあるので、魅力的な街並みになってほしい。

○女性・若者活躍の場を視察できなかった。次回審査では成果を見たい。



10年目再審査の視点

- ・高遠町の中心市街地の整備が進んでいるが、今後どのようなにぎわいがつくられていくのか。ガイドや案内人の要請と共に次回10年審査のチェック項目。
- ・女性や若者の活躍についてお話を伺う機会があったが、今回はその現場を視察できなかつたので、次回審査では成果を見たい。
- ・自然エネルギー利用のトップランナー加盟村。しかし、情報発信が弱い。成果をつないで、住民の生活の中に落とし込んで見える化し、行政、住民、民間が一体となった熱・電力エネルギー自給の取り組みを表現してほしい。他加盟村の手本になる（広域連携のメリット、地域加盟の効果）。





まとめ (仏)

- 「最も美しい村」は、特別な歴史景観が形づくる非常に優れている村である。それは博物館ではない。品質管理なくして村の発展はない。品質に対して緊張感をもっていないと、すぐに景観にノイズが入り込んでくる。「最も美しい村」をつくっているという、住民の生活そのものが遺産なのであり (Living Heritage), 品質のマネジメントに終わりはない。審美的で本質的な美しさが保たれ、感性的なインパクトが高い村であろうとすること, それが「最も美しい村」に暮らしているということであり, 「最も美しい村」を守っているということである。

By Pascal Bernard

まとめ (仏)

- フランスの「最も美しい村」：12, 13世紀頃の、中世の景観を守ることが1つの大きな基準であり、国によって公的に指定された遺産の保護を核として、その村の街並みの調和と統一感を守っている。
- フランスの「最も美しい村」が注目する12, 13世紀というのは、フランスの農村の原型が中世農業革命を経て出来上がる時期であり、並行して、封建領主の支配する都市が分散して成立する時期でもあった。この時期に建設・再建された城砦や城壁、教会は、フランスの歴史遺産に登録されている。
- それらを中心とする地域的まとまり＝「村 (Village)」を、フランスの「最も美しい村」は守っている：Succession (継続・継承)
- 集落＝宝石、環境＝宝石 (集落) を引き立たせる額縁



まとめ（目）

- 1960年以來，日本の農村社会は壊され続けている。
- 共同体でありながら住民は「分断」されてきた → 共利より「利己」の浸透。
この半世紀，活躍した都市の大企業勢力が農村分断の主役
- 食品メーカーは安い輸入原料に依存 → 大手小売業は農村の消費を東京へ
- 「最も美しい村」作戦の目的：NPO加盟で「共同体」を再構築する機会に
- この意識に立ち，住民が一丸になること・・・一種のレジスタンス
- 社会を改善する運動では，成功のためにはどこかに「使命感」に充ちたものが必須。

By 松尾雅彦



まとめ（目）

- 経済的自立戦略を構成する，食・住・エネルギーの地域内自給，美味しい村（地域の美食革命），ツーリズムを支える宿やレストラン，若者や女性の雇用や起業支援，地場産業の育成，これらの審査項目はすべて日本独自のもの
- 首長のビジョン（30年後の）と意志：平成の大合併，単独自治体として「自立」する農村自治体のネットワーク
- 松尾：「最も美しい村運動の決め手はシェフ組織との連携であり，辺境の地にこそ一流のレストランを」← ヌーベル・キュージーヌ du テロワール
- 日本の「最も美しい村」の農業・農村景観は，その土地の豊かな食に支えられている：農と食の地域自給圏（スマート・テロワール）
- ゾーニング？ 農業委員会？ 財産区？
- 自然・生態環境に根ざした農業景観を守る→集落・村を守る

「最も美しい村」の農村計画論を深く学ぶために

- 日本と世界の農山村コミュニティについて、1) 生態史観 (an ecological view of the land history) アプローチから「地域的くくり」(単位, unit) を見い出す。2) それぞれの自然・生態環境を特徴とした「地域資源」の保全・活用・開発・規制に関する基本的考え方を獲得する。3) 地域資源の番人 (管理人・マネージャー) としての地域住民を主体として組織作りをし、自治と自給の計画論を未来志向で策定する。4) 比較する。5) 「計画」・「想定」を、現実は一歩と超えていく。そのことに驚いて、共に歓ぶ。
- エコロジー経済学 (循環の経済, 自給の経済, 協同の経済)
- 水土の工学 (水の自治と食の自給, 土づくり, 地域主体)
- フィールドワークと比較社会学 (地域単位, 世界単位)

暮らし方が変わればまちが変わる
まちづくりの思考力



9784910686028



1923061023001

ISBN 978-4-910686-02-8
C3061 ¥2300E

定価：(本体2,300円+税)

次の世代に暮らし方を手渡すために
足で見つけ、頭で考えて、行動をしよう。

藤本 稔彦

そうすればきっと、
まちはよくなる!



実生社

毎日の暮らしを
フィールドワークにしよう

10年、30年かけてまちをつくる。
何かを感じ、課題を見つけ、直し、自治をする。
自分と同じ、学生に読んでほしい!



「自分でもやれる!」

この本は、そんな発見を与えてくれました。(藤本ゼミの学生より)

ためし読み：<https://www.hanmoto.com/bd/isbn/9784910686028>

書評：[地域で人が育つエコシステムへ 若手グループの近著2冊 - 一人ひとりが声をあげて平和を創る メールマガジン「オルタ広場」\(alter-magazine.jp\)](http://alter-magazine.jp)

まちづくりの思考力:暮らし方が変わればまちが変わる

藤本 穰彦 著 (実生社、税込2530円)

近年、「まちづくり」に興味のある人々は確実に増えている。しかし、「何からはじめればよいのか?」「自分に何ができるのか?」と悩む者は少なくない。

無理もない。実際の「まちづくり」には、理論だけでなく、実態を把握し「問い」をみつけだす思考力、地域の人々とつながるコミュニケーション力など、多様なスキルが求められる。これらの力を同時並行で身につけるのは「至難のわざ」ともいえる。

本書は、この「至難のわざ」を可能にする入り口を拓いてくれる。まちづくり理論の解説書、研究方法の指南書、あるいは「まちづくり」の事例集と、本書は読者によって七変化し、新たな視点、知識、そして疑似体験を提供する。著者の経験に基づいた豊潤な示唆により、「まちづくり」に向き合う者自身の課題にも気づかせてくれる。

各地を転々とし、フィールドワークに身を置いた著者だからこそ、「至難のわざ」を言語化できたのではないか。「まちづくり」に関心があるすべての者に手に取ってもらいたい。

奥山雅之・政治経済学部教授 (著者は政治経済学部准教授)



直観, 経験, 問い,
対話, 共感, 循環,
修景, 復元, 自治,
自給, 起業

藤本穰彦ゼミの第1期生
が『まちづくりの思考力』
の制作に参加 (20220506)

<https://www.meiji.ac.jp/seikei/information/2022/6t5h7p00003fo2ff.html>

情報発信

- Facebook:
<https://www.facebook.com/tokihiko.fujimoto>
- Instagram (Field note):
<https://www.instagram.com/toky/>
- 研究業績:
<https://researchmap.jp/read0156835/>
- 明治政経食料経済学Lab
<https://www.meiji.ac.jp/seikei/seminar/6t5h7p00003cgj0k.html>
<https://www.instagram.com/fujimotosemi/>
https://www.instagram.com/wakamono_shokudo/

→ 大学パンフレット2022

藤本 穰彦 セミナール

「食」を入り口に世界を探究する力を身につけよう!

藤本 穰彦 准教授

「食べる」ことについて考えたことがありますか。「食の選択(なにを、いつ、どこで、だれと、どのように食べるか)」は、生命を繋ぐために欠かせない行為です。「ヒトはいかにして食べ物を確保してきたのか」(食の歴史)を探究し、「動物を殺して食べるとはどういうことか」、「なぜ分けて食べるのか」(食の倫理)を問います。また〈未来の食卓〉をテーマに「私たちが子育て世代になる頃」を創作し、表現しました。ゼミの入室要件は、「食べるのが好きな人」です。「つくること」や「こねること」が好きな人も、これから増えると良いなと思っています。



藤本 穰彦 PROFILE

研究テーマは、「農と食をローカルにつなぐ」です。日本とアジア、ヨーロッパの農村をフィールドワークしながら、その土地らしさを表現する農村計画や景観計画、地域政策を策定するための感性的評価指標 (the Most Beautiful Villages) を開発しています。論文「自然エネルギー社会資本整備のための地域主体形成に関する研究」で工学博士 (2013年、九州大学)。

Go Forward

—Pick Up



明治大学は2021年1月
創立140周年を迎えます

学部を知る

明治大学

Step into Meiji University

動画と記事で学部を知るサイトをオープンしました!

2020/9/29

あ

明治大学 文芸部 / School of Arts and Letters

2020/11/18

重要なお知らせ

新型コロナウイルス感染症に関する明治大学の対応について

【特設ページ】

2020/9/7

Meiji.net

農村には「なにか」ある
(明治大学 政治経済学部 准教授 藤本 稔彦)

2020/12/16

- Meiji.net 農村には「なにか」ある (20201216)
- https://www.meiji.net/life/vol309_tokihiko-fujimoto
- 心にゆとりを持ち，日常の中での発見に繋げよう (20201224)
- <https://www.meiji.net/topics/trend20201224>

【付記】

- 田子町の皆さま，本日はありがとうございました！
- フランスの「最も美しい村」フィールドワークは，2017年1月24日～27日にかけて行われました。調査団はNPO法人「日本で最も美しい村」連合より派遣され，団長は山田泰司資格委員，通訳は高津龍之介事務局員（当時）でした。
- 松尾雅彦副会長（当時），後藤秀俊元事務局長，二宮かおる副会長，山田泰司資格委員より資料の提供を受けました。記して感謝申し上げます。
- 本研究は，科研費・若手研究「『農と食の地域自給圏』に関する農村社会開発手法の研究——『最も美しい村』の日仏比較」（18K14538，研究代表者：藤本穰彦）の成果の一部です。なお本報告は，投稿中の未定稿論文の内容を含むものであり，取り扱いにはご注意ください。

2022年08月19日 藤本穰彦